

三菱自動車、新型軽EV『eKクロスEV』が2022-2023日本カー・オブ・ザ・イヤー及びK CAR オブ・ザ・イヤーを受賞

三菱自動車工業株式会社（本社：東京都港区、代表執行役社長兼最高経営責任者：加藤 隆雄、以下三菱自動車）は、新型軽EV『eKクロスEV』が日本カー・オブ・ザ・イヤー実行委員会が主催する2022-2023日本カー・オブ・ザ・イヤー及びK CAR オブ・ザ・イヤーを受賞^{*1}したことを発表しました。



2022-2023
日本カー・オブ・ザ・イヤー
受賞

日本カー・オブ・ザ・イヤー実行委員会主催



2022-2023日本カー・オブ・ザ・イヤー
K CAR オブ・ザ・イヤー受賞

日本カー・オブ・ザ・イヤー実行委員会主催

受賞理由は以下の通りです。

●日本カー・オブ・ザ・イヤー

「日本独自の軽自動車規格を採用し、現実的な車両価格でバッテリーEV を所有するハードルを下げ、日本でのバッテリーEV 普及の可能性を高めた。

また本格的な脱炭素時代を前に、減少するガソリンスタンドや公共交通などの衰退も予想される状況で、軽自動車+バッテリーEV という組み合わせは、高齢者を含めた多くの人の移動の自由を担保するだけでなく、社会的課題解決への可能性を示している。

さらに、走行性能についてもハンドリングと動力性能が従来の軽自動車を凌駕しているという声が多く集まった。安全装備も360°セーフティアシスト（全方位運転支援システム）を搭載し、高級車並みの運転支援機能を装備している点も評価された。」

●K CAR オブ・ザ・イヤー

「軽自動車というカテゴリー内においても、バッテリーEV の入門車としての買い得感が高い。また想定される使用環境を考えた場合、極めて現実的な実質120km～150kmの航続距離や日本カー・オブ・ザ・イヤーの受賞理由としても多くの選考委員が指摘した、操縦安定性や静粛性などを高次元でまとめた点が高く評価された。」

三菱自動車が日本カー・オブ・ザ・イヤーを受賞するのは、1996年の『ギャラン』『レグナム』以来、26年ぶり5回目^{*2}となります。また、K CAR オブ・ザ・イヤーなど軽自動車部門賞を受賞するのは、2020年の『eK クロススペース』『eK スペース』以来、2年ぶり3回目^{*3}となります。

当社社長 加藤隆雄のコメント

「名誉ある日本カー・オブ・ザ・イヤーを受賞でき、大変光栄に思います。今回の結果は、当社が長年にわたり培ってきた電動化技術と、当社のクルマづくりの底力が評価された証だと思えます。

当社は今後も三菱自動車らしい、環境に優しく、安全・安心で快適なクルマを提供し、お客様に楽しいカーライフをお届けすると共に、カーボンニュートラル社会の実現にも貢献できるよう、一層努めてまいります。」

新型軽EV『eK クロス EV』は、SUVテイストの軽自動車であるeK クロスシリーズ^{**4}に新たに設定したEVモデルで、日常使いに十分な充電走行距離180km（WLTCモード）^{*5}を実現しながら、お求めになりやすい価格設定としました。加えて広々とした快適な室内空間と使い勝手の良さに、EVならではの滑らかで力強い走り、圧倒的な静粛性と良好な乗り心地、さらに先進の運転支援機能とコネクティッド技術を装備し好評を博しており、今年5月の発表以降の受注台数は約7,500台（2022年11月末時点）となります。

<『eK クロス EV』スペシャルサイトはこちら>

https://www.mitsubishi-motors.co.jp/lineup/ek_x_ev/special/

<『eK クロス EV』車種サイトはこちら>

https://www.mitsubishi-motors.co.jp/lineup/ek_x_ev/index.html

*1…日産『サクラ』と同時受賞

*2…『ギャラン』（1987年）、『ダイヤモンド』（1990年）、『FTO』（1994年）、『ギャラン』『レグナム』（1996年）に次ぐ5回目

*3…『eK クロス』『eK ワゴン』（2019年）、『eK クロススペース』『eK スペース』（2020年）に次ぐ3回目

*4…軽ハイトワゴン『eK クロス』、軽スーパーハイトワゴン『eK クロス スペース』

*5…軽自動車及びコンパクトカーユーザーの約8割は、1日当たりの走行距離が50km以下（自社調べ）であり、大半のユーザーは2日間充電せずに走行できる想定

■2022-2023 日本カー・オブ・ザ・イヤーの概要

43回目を迎えた今回の日本カー・オブ・ザ・イヤーは、2021年11月1日から2022年10月31日までに日本国内で発表または発売された乗用車を対象としています。11月4日に「10ベストカー」が選出され、11月24日の10ベストカー取材会を経て選考委員による投票が行われ、12月8日の最終選考会にて「2022-2023 日本カー・オブ・ザ・イヤー」を決定。同時に、「インポート・カー・オブ・ザ・イヤー」、「デザイン・カー・オブ・ザ・イヤー」、「テクノロジー・カー・オブ・ザ・イヤー」、「パフォーマンス・カー・オブ・ザ・イヤー」、「K CAR オブ・ザ・イヤー」も決定しました。

以 上